



日本銀行金融研究所
Institute for Monetary and Economic Studies,
Bank of Japan

金研ニュースレター

2016 年 1 月

金融研究所 (Institute for Monetary and Economic Studies, IMES) は、1982 年 10 月に日本銀行創立 100 周年を記念して、日本銀行の内部組織の 1 つとして設立されました。金融研究所は、金融経済の理論、制度、歴史に関する研究を行っているほか、金融経済に関する歴史的資料の収集・保存・公開を行っています。

ハイライト

1. 貨幣博物館リニューアルオープン
2. ISO 20022 RMG 会合

「金研ニュースレター」は、日本銀行金融研究所が主催したイベントを、幅広い読者を対象に、タイムリーにお知らせすることを目的としています。

1. 貨幣博物館リニューアルオープン

日本銀行金融研究所貨幣博物館は、2015 年 11 月 21 日(土)にリニューアルオープンしました。

貨幣博物館は、1985 年の開館以来、日本を中心とした古くからのお金やそれらに関する様々な資料を収集・保存し、整理・調査研究を進めながら、広く一般に公開してきました。

開館から 30 年が経ち、近年は、子ども、修学旅行生や大学のゼミなどの学生、ご高齢の方や車いすの方など来館者層が多様化するようになりました。



記念式典で挨拶する
黒田東彦総裁



新しい展示室 明るく開放感のある空間演出
子どもや車いすの方にも見やすい構造の展示ケース

そのため、リニューアルに当たっては来館者層の変化に対応し、バリアフリー化をはかったほか、親しみやすさ、わかりやすさを意識して、館内のレイアウト、デザイン、色調を一新しました。



幕末開港後のインフレ(左)や西南戦争後の紙幣価値の下落(右)を説明する風刺画を用いた展示グラフィック
(貨幣博物館所蔵錦絵より)



お金が使われている場面の絵画資料を多用
(貨幣博物館所蔵錦絵より)

これまでの貨幣制度史の観点に加え、新たな切り口として、来館者の関心も高い、「お金が実際にどのように使われていたか」といったことや昔のモノの値段なども展示しています。

貨幣の重さ体験や買い物体験といったニーズの高い体験展示も充実させ、開館以来ご家族連れや学生団体・生涯学習団体など多くのお客様にご来館頂いています。



「お江戸日本橋」をイメージした暖簾風のバナー(貨幣博物館玄関)

また展示内容については、学界の新たな研究成果を反映させ、現時点における日本貨幣史の学術的なスタンダードを展示するため、多くの識者の方々からコメントを頂きながら製作しました。

所蔵資料の整理・調査研究の進展の成果を活かし、当時の経済や貨幣に関わる世相を風刺した当館所蔵の錦絵を用い視覚的にもわかりやすい展示パネルとしました。



オープン後の盛況な館内の様子



空気環境や照明など
保存機能を向上させた展示ケース

オープンに先立ち行われた記念式典では、黒田総裁による挨拶が行われたほか、国立歴史民俗博物館・久留島浩館長からご祝辞を頂きました。



オープンに先立ち行われた記念式典でのテープカット(左から順に): 橋本敬会長(日本橋地域ルネサンス100年計画委員会)、岩田規久男副総裁(日本銀行)、久留島浩館長(国立歴史民俗博物館)、黒田東彦総裁(日本銀行)、松村恵司所長(奈良文化財研究所)、中村胤夫会長(名橋「日本橋」保存会)。司会: 渡邊賢一郎所長(日本銀行金融研究所)。

※肩書き・所属は、本式典開催時点のものです。

一方で、保有する貴重な文化財を後世に長く伝えることができるよう、東京文化財研究所などのご指導を頂きながら、保存機能を高めた展示ケースを製作しました。

また、今後継続的に実施していく資料の整理・調査研究の成果を反映しやすいよう、展示替えのし易さも重視した仕様としています。



国立歴史民俗博物館
久留島浩館長ご祝辞

リニューアルにあたっての、黒田総裁挨拶および国立歴史民俗博物館・久留島館長ご祝辞は貨幣博物館ホームページに掲載しています。

<http://www.imes.boj.or.jp/cm/collection/>

リニューアルの概要については、広報誌「にちぎん」No.44 2015年冬号(http://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/backnumber/data/nichigin44-9.pdf)もご覧ください。

2. ISO 20022 RMG 会合

12 月 1～2 日に、日本銀行本店において、ISO 20022 RMG 会合が開催されました。

ISO 20022 は、金融サービス分野で利用される通信メッセージに関する国際規格です。RMG (Registration Management Group) は、同規格に準拠するメッセージの登録や管理に関する意思決定機関です。ISO 20022 RMG は、日本銀行金融研究所が国内事務局を務める ISO/TC68 (国際標準化機構・金融サービス分野専門委員会) の下に設けられています。

ISO 20022 RMG の会合は年 2 回開催されています。今回、2015 年下期の会合について日本銀行金融研究所がホストを務めました。



議事進行を行う RMG コンビナーの James Whittle 氏 (Payments UK)

会合には、各国の RMG メンバー約 40 名が出席したほか、ISO/TC68 国内委員会メンバーなど約 20 名がオブザーバー参加しました。会合では、ISO 20022 メッセージの登録・管理に関する諸課題について議論が行われたほか、RMG 傘下に設置されている各グループから、作業進捗の報告が行われました。



ISO 20022 RMG 会合の様子

また、12月1日の午後には、“ISO 2022 Meet the Market”イベントを開催しました。同イベントでは、わが国を含め、各国における ISO 2022 を巡る動向が紹介されました。発表に続く総括セッションでは、こうした場を通じて情報共有を行うとともに、国際的な協力関係の下で ISO 2022 の導入や活用に関する検討を進めていくことの重要性が強調されました。

“ISO 2022 Meet the Market”イベントにおける各プレゼンテーション資料は ISO/TC68 国内委員会事務局のホームページに掲載しています。

<http://www.imes.boj.or.jp/iso/katsudou.html>



「Canadian Payments Association ISO 2022 Payments Standard Initiative」と題して発表する Cathy Williams 氏 (Royal Bank of Canada)



「U.S. Stakeholder Group Update on ISO 2022 Implementation」と題して発表する Roy DeCicco 氏 (J.P. Morgan)



「Standards in market infrastructures... and beyond」と題して発表する François Laurent 氏 (欧州中央銀行)



「ISO 2022 in China」と題して発表する Weiwei Shen 氏 (China Foreign Exchange Trade System)



「Standards in the Financial Value Chain: What are the benefits for Adopting ISO 2022 and beyond? Denmark/Nordic Considerations」と題して発表する Stig Korsgaard 氏 (Nets)



「Introduction to KFTC and Adoption of ISO 2022」と題して発表する Heasuk Jo 氏 (Korea Financial Telecommunications & Clearings Institute)



「Adoption of ISO 20022 in New BOJ-NET」と題して発表する引馬誠也氏（日本銀行）



「Zengin System - The Zengin Data Telecommunication System -」と題して発表する小暮雄一郎氏（全国銀行資金決済ネットワーク）



「JASDEC's Implementation of ISO 20022」と題して発表する杉江潤氏（証券保管振替機構）

金研ニュースレター 2016 年 1 月

※本誌に関する照会は、日本銀行金融研究所までお寄せください。

無断での転載・複製はご遠慮ください。

日本銀行金融研究所 (IMES)

〒103-8660 東京都中央区日本橋本石町 2-1-1

TEL: 03-3279-1111 (大代表)

FAX: 03-3510-1265

E-mail: imes.journals-info@boj.or.jp

ホームページ: <http://www.imes.boj.or.jp/index.html>